

5 音のふしぎ (指導時期 7月・6時間)

★：その学年で特に育成を目指すべき問題解決の力を意識した内容です。

◆：その時間で学習する活動内容です。

単元の目標

音を出したときの震え方に着目して、音の大きさを変えたときの現象の違いを比較しながら、音の性質について調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を養うことができるようにする。

●物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わること。

●音を出したときの震え方の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、音の性質についての問題を見だし、表現すること。

小単元	時	学習内容	観点別評価規準例
1 音の出方	1	○楽器などを使って音を出し、気付いたことを話し合う。 ★ 問題を見つけよう	【態度】 音の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 〈行動観察・発言分析・記述分析〉 【思・判・表】 音の性質について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 〈発言分析・記述分析〉
	2 3	○音の大きさを変えたときの物の震え方の違いを比べながら調べる。 ◆ じっけん1	【知・技】 音の性質について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 〈行動観察・記録分析〉 【知・技】 物から音が出るとき、物は震えていること、また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わることを理解している。 〈発言分析・記述分析〉

2音のつたわり方	4	<p>○糸電話を作って、友達と話をしたときのことについて、気付いたことを話し合う。</p> <p>★ 問題を見つけよう</p> <p>○音が伝わる時の物の震え方を比べながら調べる。</p> <p>◆ じっけん2</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>音の性質について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</p> <p>〈発言分析・記述分析〉</p> <hr/> <p>【知・技】</p> <p>物から音が伝わる時、物は震えていることを理解している。</p> <p>〈発言分析・記述分析〉</p>
	5	<p>○作ってみよう「音のおもちゃを作ってみよう！」を行う。</p>	<p>【態度】</p> <p>音の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p> <p>〈行動観察・発言分析・記述分析〉</p>
	6	<p>◎「たしかめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。</p>	<p>【態度】</p> <p>音の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p> <p>〈行動観察・発言分析・記述分析〉</p>

【準備物】

大太鼓・小太鼓・トファイアングル・シンバル・ギターなど、スバンコール、セロハンテープ、ビーズ（球体）、[付箋（数色）]、輪ゴム（長い物）、糸（たこ糸など）、コップ（紙）、[スプーン、棒（木など）]、プラスチック容器（ふた付きの透明の物、直方体の物）、はさみ、[タブレット]、色鉛筆、色紙、画用紙、クリップ、千枚通し（教師用）、糊、油性ペン、竹ひご